

4社共同で平和への願い

「折り鶴の再生・循環プロジェクト」に参加

株式会社クラウン・パッケージ

クラウン・パッケージ（佐光恵藏社長）は、広島市の「折り鶴の再生・循環プロジェクト」に参加し、同社を含めた4社共同の取り組みを開始する。参加企業は同社のほか、コニカミノルタジャパン（東京都港区）、近畿日本ツーリスト（東京都千代田区）、トモエ（広島市）。

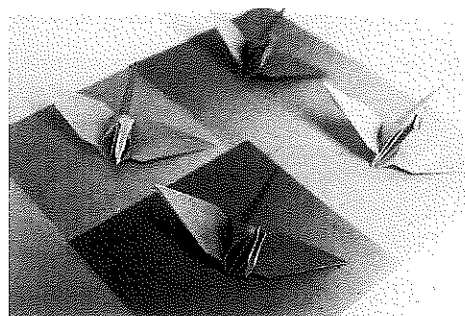
折り鶴は再び折り鶴に再生

広島市の平和記念公園には、国内外から年間約1000万羽の折り鶴が捧げられている。一羽一羽に平和への思いが託されているだけに、処理については安易な対応はできない。広島市では、この平和を願う輪を広げていくため、「折り鶴に託された思いを昇華させるための方策検討委員会」を設置。2012年に最終とりまとめが市長に報告された。“折り鶴に託された平和への思いを共有し、新たな「思い」として継承”することが方策のコンセプト（基本理念）として掲げられている。

クラウン・パッケージでは2015年4月から、



カラフルウィッシュを使った紙器への実績品



カラフルウィッシュで折られた折り鶴

展示後の折り鶴を広島市から預かり、紙の素材として再生し、「カラフルウィッシュ」のブランド名で商品化している。約1年をかけて生産ワークフローを構築。紙素材として再生するため広島市内の障害者施設に仕分け作業を委託した。「折り鶴にはさまざまな素材が使われている。ひもやボタン、フィルムや新聞紙を折ったもの、折り紙も金銀やカーボンが入っている黒は再生原料には適していない。何度も施設に足を運び仕分けるか徹底させた」（同社研究開発室の八木野徹室長）。カラフルウィッシュを使用したパッケージには、同事業の認定の証である折り鶴ロゴマークを入れ平和を願うメッセージを発信できる。さらに、日本ユネスコ協会連盟マークを表示できる。同社ではカラフルウィッシュの売上の一部を日本ユネスコ協会連盟に寄付し、途上国の教育や世界遺産の保護、東日本第震災子ども支援などに貢献している。

今回の共同プロジェクトでは、クラウン・パッケージとトモエが禁忌品の除去から再生紙の加工を担当。コニカミノルタが断裁、印刷、加工を行い折り鶴からの再生折り紙を制作。近畿日本ツーリストは、修学旅行などで平和記念公園を訪れる学校に平和学習の教材として折り紙を有償で提供する。平和への願いを込めた折り鶴は、再び折り鶴として平和記念公園に捧げられることになる。

折り紙の売上の一部は、クラウン・パッケージを通じ日本ユネスコ協会連盟に寄付される。📌